Now of graduate

卒業生の今

活躍する医科歯科人

地域の人に寄り添い あたたかな医療を提供

諏訪中央病院
名誉院長・看護学校長・老健施設長
鎌田 實氏

かまた みのる
1974年東京医科歯科大学医学部卒業。医師として地域医療に携わりつつ、チェルノブイリ救援活動、イラクへの医療支援にも取り組む。『がんばらない』(集英社)など著書も多く、作家としても活躍。

長野県茅野市、八ヶ岳蓼科高原のふもとに位置する諏訪中央病院。住民と作る地域医療を実践するこの病院で、鎌田實氏は30年以上、医療の第一線を走ってきた。現在は、同病院の医師・名誉院長を務める傍ら、チェルノブイリ原発の被災者支援やイラク支援など国際医療支援、執筆活動など多方面で活躍している。

鎌田氏が諏訪中央病院に赴任したのは、東京医科歯科大学医学部を卒業した1974年のこと。鎌田氏は当時を振り返る。

「諏訪中央病院は、全国の医学部から優れた医師が集結し、若い医師を育てながら地域医療を先導している病院だと聞き、勤務したいと思いました。赴任した頃の諏訪中央病院は、累積赤字が4億円もあり、いつつぶれてもおかしくないといわれていました。しかし、迷いはありませんでした」

地域医療は、単なる医療行為にとどまらず、疾病予防、健康増進の普及活動など多岐に及ぶ。当初は、医師たちの気持ちが地域の人たちにうまく伝わらず、訪れる患者は少なかった。「ならばこちらから、地域の人たちに直接伝えていくしかない」と、医師たちが自ら地域に出て、地域医療を実践した。

鎌田氏は、保健師やボランティアスタッフなどとともに積極的に地域へ出向き、「健康づくり運動」などを実施。食事、運動などの生活指導を続けた結果、人々の意識は着実に変わっていった。当時は脳卒中患者が多く、医療費も高額だった地域が、現在では、国内でも有数の長寿地域となると同時に、国内でもトップクラスの医療費が低い地域になった。

「医療機関として、救急医療や高度・先進医療を提供することは重要です。しかし、医療は必ずしも命を救うためだけにあるのではありません。患者さんやその家族を支えることも医療に含まれるのではないでしょうか。それを『あたたかな医療』と考えています」

自由を享受した学生時代

母校で、臨床教授も務める鎌田氏は、学生に対しても「あたたかな医療」の大切さを伝えている。授業を行うのは年に数回だが、それも恩返しだと語る。

「東京医科歯科大学は自由に過ごせる校風でした。教養部時代は学生運動に明け暮れ、医学部に進んでからは本を読んだり芝居を見たりと、勉強以外の活動が多かった。あの頃の経験のおかげで、今では執筆活動もできています。周りには自分のような苦学生もたくさんいました。そのような環境で学べたので、人生は自分で切り拓くものと考えるようになったのでしょう」

鎌田氏は、東日本大震災で被害を受けた被災地の支援活動を行っている。避難所となっている石巻市立湊小学校には、希望の湯を開設。 連日100人以上の入浴がある(写真右)、震災後間もない頃に訪れた女川町(写真左)。

諏訪中央病院には、東京医科歯科大学の医師が大勢協力している。救急医療体制を充実させる際にも多くの人的支援を受けたという。

「諏訪中央病院では、東京医科歯科大学の医師も診療に当たってくれています。彼らは最先端の医療を提供しながら、私たちが目指す『あたたかな医療』も実践してくれます。いまや東京医科歯科大学の教育力の高さは世界一を目指せるほどですので、若い医師たちにはどんどん世界に出ていってほしいと思います」

被災地を支える医療

鎌田氏は、国際的な医療支援活動にも積極的に取り組んでいる。

自らが理事長を務めるJCF(日本チェルノブイリ連帯基金)では、これまでに90回以上も医師団をベラルーシに派遣。小児甲状腺がんの治療と診断、検診などを行ってきた。

東日本大震災については、「チェルノブイリのようなことは二度と起きてほしくなかったから、本当に悲しい」と語るが、だからこそ自分が行かねばならないと奮起した。

震災後間もなく、福島県南相馬市から諏訪中央病院にSOSがあり、医師、看護師らとともに院内に備蓄してあった薬をすべて持って、現地の医療支援に向かった。現在も、継続して東北地方への医療スタッフの派遣、物資の支援を行っている。被災した人たちの感染症対策として、多くの人がお風呂に入れるようにする「千人風呂プロジェクト」にも取り組んでいる。

今後は、被災した訪問看護ステーションに、中古車を提供したいという。被災者が、自らで行動できるような支援を目指している。

「ある程度、地元の人々が動けるようになれば、後方支援が大切になってきます。諏訪中央病院でも『救う医療』と『支える医療』を重視しています。チェルノブイリやイラクで、地元の医師の育成に力を入れてきたのもそのためです」

今回、全国の医師たちが被災者支援のために活躍したことにより、「被災地以外の人々にも医療の大切さが伝わったはず」と話す鎌田氏。これを機に、地域に寄り添う「あたたかな医療」が広がっていくことを願わずにはいられない。

組合立 諏訪中央病院
住所 長野県茅野市玉川4300番地
☎ 0266-72-1000(代)

診療科目:内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科
病床数:360床(一般病床315床、療養病床45床)
スタッフ:572名
「あたたかな急性期病院」をスローガンに、地域包括ケアに軸足を置いた地域医療を実践。緩和ケア病棟、訪問看護ステーション、老人保健施設などもいち早く開設。昭和58年に始めた「ほろ酔い勉強会」は現在まで続き、間もなく200回を迎える(2011年5月現在)。